

労働時間削減で園芸品目の収益向上を目指せ！

～カボチャの直は栽培に挑戦～

東近江市蒲生地域の農事組合法人ぐっど・はーべすととは、平成元年に集落1農場の営農組合を設立し、平成21年に法人へ発展しました。平成25年から、水稻、麦、大豆に加えて、園芸品目(キャベツ、カボチャ、小菊)を導入しています。しかし、カボチャ部門では、時給額(収入から支出を差し引いて労務時間で割った金額)が目標に達していませんでした(392円、H27年)。



そこで当課は、労務管理が十分でなく労働時間が長いことが課題ととらえ、継続してカボチャを安定的に栽培するための労務管理・栽培管理を提案するとともに、法人の園芸担当が替わってもノウハウが引き継がれるよう、マニュアルを作成することを目標に支援を行いました。

ちよく

【直は栽培の導入】

東近江管内のカボチャ栽培では、1か月ほど育苗した苗を定植する移植栽培が一般的ですが、育苗・定植・あんどん(定植後の風よけ)敷設と撤収に多くの労働時間がかかるため、当課から直は栽培の導入を提案しました。直は栽培は、株数の確保が難しいものの省力的で、集落営農向けの栽培技術です。株数を確保するため、右のポイントを重点事項として支援しました。

直は栽培のポイント:株数を確保する！

- ・株間を狭くし(90cm→70cm) 欠株に備える
- ・は種深度を一定にして、出芽を安定させる
- ・柔らかい培土で覆土する・モミガラで被覆する
- ・は種後、かん水を行う。

【導入結果】

直は栽培を導入し栽培管理も適切に行われた結果、植付にかかる作業時間が55.7時間(平成27年)から20.2時間(平成28年)に削減されました(表1)。

カボチャ部門の収益性が向上し、時給額912円に改善されました(表2)。当課ではこの結果を分析し、カボチャ直は栽培マニュアル(暫定版)を作成しました。

同法人では、このマニュアルを活用し、園芸担当が交代される来作も直は栽培でカボチャの栽培が行われる予定です。



流れ作業で、は種(右)と覆土(左)を効率的に行う

表1 植付にかかる作業時間の変化(10aあたり)

	平成27年作	平成28年作
	移植栽培	直は栽培
育苗管理	10.4	-
定植・あんどん敷設	24.5	-
行灯修復・撤収	20.8	-
は種	-	20.2
合計	55.7	20.2

表2 収量・作業時間時給換算額の変化

	平成27年作	平成28年作
	移植栽培	直は栽培
収量	1,392kg	1,899kg
作業時間	260時間	243時間
時給額	391.9円	912.3円

集落営農で園芸品目の導入や改善を検討されている方、カボチャの直は栽培に興味のある方は、普及指導センターにご相談ください。